

---

# 正義を目指す男と執念深き亡霊達

アリエル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

正義を目指す男と執念深き亡霊達

### 【Nコード】

N4458K

### 【作者名】

アリエル

### 【あらすじ】

一つの世界に正義の味方を目指していた男は少女を庇い息を引き取る。しかし男は四人の亡霊達と共に別世界にまぬかれる。そこで男は何を学び、何をするのか・・・

一 「四人の亡霊」(前書き)

ダメ文ですが投稿しました。

## 一 「四人の亡霊」

正義の味方……。

正直俺はカッコいいと思ったこともあればダサいと思ったこともある。

それでも、目指したいと思った。

かっこいいとかかっこ悪いとかそんなもんだったていい目指したいから目指すだけだ。

弱い人を助けるそれが正義だと俺は信じていた。

だが、違った……。

俺はある人から教わった。

正義は人に寄って異なるもの、助けられる人を一人でも多く助け、叶えられる願いを一つでも多く叶える……それが正義だと……。

最初はどうしても認められなかった。

何か……何なのか……分からないから認められなかった。

助けたいそれでも助けられない……。

叶えたいそれでも叶えられない……。

俺はその現実を何度も知った。

ある人は言った。

「本当の正義など存在しない」と……。

でも、それでも目指したい。

俺の信じた正義の味方に……。

剣道の稽古の帰り道、人だかりの多い交差点で銃を持った男が銃乱射を始めた。

俺はアイツを止めようとした。

その時、アイツの銃口が幼い少女へと向いた。

今の状況が分らずうろたえている少女、アイツは狂ったような笑

いを浮かべて引き金に指を置いた。

俺は走った。

少女を守るため・・・幼い命を守るために・・・

少女の前に飛び出し・・・そして・・・

響く一つのせつない銃声・・・。

これが俺の生涯の最後だった。

全身に走る激痛、全身から抜ける力・・・。

グラリと俺の体は簡単に崩れ落ち口の中が鉄の味で広がると赤い液を噴き出す。

倒れて初めてそれが自分の血であることがわかった。

その直後、アイツは警官に確保された。

速く来いよ・・・。

なんて愚痴を言いながら少女に目を向ける。

目からポロポロと大粒の涙を流した少女は俺を見つめている。

「もう・・・だい・・・じょう・・・ぶ」

少女の悲しき声が響く。

これでいいよな・・・師匠・・・。

俺はゆっくりと目を瞑ろうとした。

しかしその時おかしなことに俺は気付いた。

周りが止まっている・・・まるで時が止まったように・・・

これが、死ってやつか・・・。

そう納得させようとした時俺の視界に何者かの足元が見えた。

「ほおー、死ぬには惜しい男だな」

足元しか見えないが男はたぶん俺を見降ろしながら言った。

「ふははは！そのとうりだな。戦いを忘れることが出来んように正義を忘れることが出来んと見える！」

今度は後ろから声が聞こえる。

「まったくだね・・・僕ももう一度救世主になるのかな？」

そして第三者が現れる。

「黙れ貴様らこいつはこれからお世話になる家だぞ。気に要らないならすぐに帰れ」

また人が現れる。

「その気は無いね・この僕、リボンス・アルマークはね・・・」

「この私！ギム・ギンガナムもな！」

「そうか・・・じゃっ行こうか、ラウ・ル・クルーゼ」

「ふふ・・・では行こうか墮天使ルシファー」

この日一人青年が一つの世界から消えた。

一 「四人の亡霊」(後書き)

え〜どうでしたしょうか？

書いたばりですので何とも自分的には言えませんがこれから頑張  
ていきます。

温かい目で見てください

二 「血塗られた少年」 (前書き)

遅れましたが・・・  
なんとか完成しました・

## 二 「血塗られた少年」

大雨が降る中、青年と少女が水び出しになりながら走っていた。

「凄い雨だ！今日は晴れじゃなかったのか？」

「恭也お兄ちゃん！速く帰ろう！」

快晴だった空は、突然曇り始め大雨へと変わった。

生憎傘は持つてなく買物から帰宅中のベストタイミングで降りだした雨、濡れるのを覚悟で全力ダッシュ中というのが今の現状である。

恭也はケータイを持って来なかったことを後悔した。

服はすでにずぶ濡れ状態、雨宿りをするも止む気配は全くない。

自分の妹、なのはも全力でダッシュをしているもいつ転んで怪我をしてもおかしくない。

やむえずもう一度雨宿りをしようと何処か場所を探していると・・・

「あっなのは！どこへ！」

突然、なのはが細い路地へと走っていた。

自分も追いかけてようと走りだそうとした瞬間

(・・・た・・・け・・・あ)

頭の中に声が響いた。

「これは!?!」

響いた声に驚き足を止めてしまいが「恭也お兄ちゃん！」となのは  
の呼ぶ声が聞こえたため急いでなのはへと駆け寄った。

「なのは！どうしたんだ突ぜ・・・」

そこにはブカブカの服を着て全身血だらけの少年は倒れていた。

「君！大丈夫！」

「しっかりして！」

怪我をしているのではないかと思い慎重に抱き上げる。  
血が染みついていますがどこも怪我はしていないようだ。

「け・・・そうだ・・・ないんだった・・・一先ず家に・・・」

「うん！」

と、抱き上げようとした時、少年は瞳を開き突然立ち上がった。そ  
の動きはまるで糸で操られた人形のように・・・。

その瞬間、少年の背中から虹色の翼が生え始めた。

その美しい虹色の光に2人は見とれていた。

そして、少年は叫んだ。

「ふふ・・・はははははアアアア！ 蝶！！」

最後の言葉だけは聞き取れなかった。  
少年は崩れ落ちるように倒れた。

二 「血塗られた少年」(後書き)

短いですが、次はもうちょっと長く努力しまっす・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4458k/>

---

正義を目指す男と執念深き亡霊達

2010年10月14日13時38分発行